

シェアリングシティ宣言【11月24日17時 東京都永田町】

【11月25日にシェアリングシティサミット東京】

## 全国で初！「シェアリングシティ宣言」を行いました



多久市、千葉市、静岡県浜松市、長崎県島原市、秋田県湯沢市の5都市が、全国で初めて共同でシェアリングシティ宣言を行いました。これまでは、それぞれがシェアリングエコノミーの企業と協定を結んでいましたが、今後は、シェアリングシティとして、シェアリングエコノミー協会に属する会社と相互に連携するようになります。

多久市では、今年度実施している「多久市ローカルシェアリングセンター事業」で連携している「クラウドワークス」と体験型観光をメインとする「タビカ」との連携でこの宣言を行いました。

「クラウドワークス」は、平成28年度に地方創生加速化交付金事業として行う「多久市ローカルシェアリング事業」を活用し、在宅ワークができるよう、働き手（ワーカー）の技能習得を行っています。また、「タビカ」は、多久市観光協会と連携し、体験型観光のコンテンツ追加などをインターネット上に掲載し、新たな観光客誘致に取り組みます。



## 新しい働き方が見つかる

### 多久市ローカルシェアリングセンター

〒846-0002 多久市北多久町小侍 1088-2

☎ 37-1323



センターの外観



セミナーの風景



ワーク研修で熱心に学ぶ受講生

※IoTとは、コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

多久市ローカルシェアリングセンター（以下LSC）では、多久市を中心に「仕事をしたい！でも自宅から離れられない」という人に、クラウドソーシングを通して、現代的な在宅ワークを提案すると共に、企業・機関におけるクラウドソーシングの利用をご紹介・サポートしています。

子育てや家事と両立できる自分に合った働き方を身につけようと情報通信技術を活用して、インターネット上で仕事を受注する新しい働き方を学ぶ講座を開催しています。

主婦を中心に市内外から37人が受講。情報機器やアプリケーションの使用方法習得に励みました。

LSCの運営を行う石崎代表は「働きたくても働く機会に出会えていない人はたくさんいます。その人という『資産』を、ローカルシェアリングは価値に変えることが出来ます。シェアリングセンターを活用して魅力ある多久の地域づくりをIoT（※）の力で実現していきます。



特定非営利法人 価値創造プラットフォーム 代表理事  
いしざきまさのり  
石崎 方規さん